



光野中学校 ビブリオバトルの取組

ビブリオバトルの経験のない生徒たちに、本を通して人とつながる楽しさを知ってもらうために昨年度1年間で取り組んだことを紹介します。

① 2年国語「読書を楽しむ」ミニビブリオバトル（7月）

光野中学校では「ビブリオバトル」を経験したことがない生徒が多かったため、国語科で「ミニビブリオバトル」に取り組みました。

1時間目：①ビブリオバトルとは？（説明）②本選び

2時間目：①班でミニビブリオバトルをし、チャンプ本を決める

②班のチャンプ本でミニビブリオバトルをし、クラスのチャンプ本を決める



【授業者より】

「ビブリオバトルって何？」からのスタートだったため、どんな風に本を紹介すればよいかわからず、苦戦する生徒が多かったです。そのため、どんなことを話せばよいか例を挙げたり、他校のビブリオバトルの動画を見せたりして、ビブリオバトルをイメージさせました。普段は全体の前に立つことを嫌がる生徒が、『僕は上手にしゃべれない』（椎野直弥・著）の内容を、自分自身のことと重ねて話し、班のチャンプ本に選ばれ、クラス全員の前で堂々と話している姿がとても印象的でした。

各クラスでチャンプ本に選ばれた生徒は、市の中学生ビブリオバトル大会の交流会に参加し、意欲的に本の紹介をしていました。

② 図書委員会の取組 ビブリオバトル（12月）

2年生以外にもビブリオバトルを広めるため、12月に図書委員会主催でビブリオバトルを開催しました。一度国語科で経験しているため、快くバトルを受け入れてくれる生徒や参観に来る生徒が多く、会場は大いに盛り上がり、参加者にとって充実した時間となりました。また、校区の小学校の司書も参観し、よい小中連携の場にもなりました。



〈参加者の感想〉

今まで読んだことのない、聞いたことのない本がでてきて、どの本もとても読みたくなりました。これを機にもっとたくさんの本を借りて紹介していきたいと思いました。

③ 1年国語「話題や展開を捉えて話し合おう」ミニビブリオバトル（3月）

校内のビブリオバトルは2年生の参観が多く、やはり一度全員がやってみるという経験が大切だと感じ、1年生の国語科でも1時間の授業に取り組みました。



- ①前の時間の授業終わりに本を選ぶよう予告しておく
- ①ビブリオバトルの説明
- ②20分程度で本選びと紹介したい箇所に付箋を貼る等準備
- ③班でミニビブリオバトルをし、チャンプ本を選ぶ

ビブリオバトルは初めての生徒がほとんどで、準備の時間も少なかったため、発表の中に質疑応答もOKにしたところ、和気あいあいと楽しそうに取り組んでいる姿が見られました。

国語科で行ったことで、全員が経験でき、本校が大切にしている「表現力の育成」にもつながる取り組みになったと思います。今後も定期的に行いたいです。

学 校 図 書 館 訪 問 記

年度初めの図書館オリエンテーションは、学校図書館の役割や魅力を伝える重要な役割を果たします。

北陽小学校 6年生へのオリエンテーション

図書館利用のきまりの確認に加え、高学年には読書の効果についての話もありました。効果的に読書をするためには、自分にとって少し挑戦となる本を手にとること、そして学年のめあてである「作品のテーマについて考えながら読む」ことが大切であると、学校司書から話がありました。その後、6年生におすすめの本の紹介と味見読書が行われ、今年度初めての貸出タイムとなりました。味見読書で手に取った本の中から、借りる本を選ぶ児童も多かったです。



北辰中学校 1・2年生へのオリエンテーション



中学校の図書館を初めて利用する1年生には、学校司書が利用のきまりや北辰中学校図書館の特徴、そして朝読書の心得について説明を行いました。昨年度末のアンケート結果も踏まえ、朝読書の時間を有効に活用し、自分を育てる読書を心がけてほしいと伝えた後、中学校の蔵書に親んでもらうことを兼ねて「こびと探し」を実施しました。2年生には、利用のきまりと朝読書について改めて確認したうえで、昨年度の自分の読書傾向をもとに図書館内のおすすめスポットを選び、オクリンプラスを使って図書館の地図にピンを立てる活動を行いました。



オリエンテーションをきっかけに「来たい」「使いたい」と思ってもらえるよう各校で工夫しています。

白山市学校図書館支援センター
白山市古城町 305 松任図書館内
Tel 076(274)6523

